



持続可能な開発のための教育

「画像と教材」

アクティブメソッドツールキット



First published 2008 by

THE CONSUMER CITIZENSHIP NETWORK
HEDMARK UNIVERSITY COLLEGE
2306 HAMAR, NORWAY

© 2008 with the Authors

ISBN: 978-82-7671-673-3



The CCN project has been carried out with the support of the European Community in the framework of the Socrates programme. The content of this publication does not necessarily reflect the position of the European Community, nor does it involve any responsibility on the part of the European Community.



This resource is part funded by the Department of Education and Science, Ireland, as part of its contribution to the UN Decade of Education for Sustainable Development 2005-2014.

Edited by:

MIRIAM O'DONOGHUE, Curriculum Development Unit (CDVEC), Dublin, Ireland
MELLA CUSACK, Curriculum Development Unit (CDVEC) / Trócaire, Ireland



Design and Layout by:

GREGOR TORKAR, Notranjska Regional Park, Slovenia



Acknowledgements

This resource is the result of contributions, reflections and development work carried out by CCN Task Group 8. Members of the task group (in alphabetical order) are as follows:

- NADIA BOYADJIEVA, Foundation Europartners 2000, Bulgaria
- MELLA CUSACK, Curriculum Development Unit (CDVEC) / Trócaire, Ireland
- ANA CHRISTINA FIGUEIRA, University of Algarve, Portugal
- PETER GNIELZYK, Federation of German Consumers Organisation, Germany
- LEENA GRAEFFE, University of Helsinki, Finland
- STEINUNN ANNA GUNNLAUGSDÓTTIR, Society for Life-skill Teachers in Upper Secondary Schools, Iceland
- SJÖFN GUÐMUNDSDÓTTIR, Society for Life-skill Teachers in Upper Secondary Schools, Iceland
- LEENA LAHTI, Joensuu University, Finland
- HINDREK LOOTUS, Tallinn University, Estonia
- MARINO MELISSANO, Centro Tecnico Regionale di Ricerca sul Consumo Europeo – CTRRCE, Italy
- NUNO MELOESEL, ESELx, Portugal
- MIRIAM O'DONOGHUE, Curriculum Development Unit (CDVEC), Dublin, Ireland
- KAREN MUGLIETT, The University of Malta, Malta
- LONE SINGSTAD PÅLSHAUGEN, The Sophie Foundation / The Ideas Bank, Norway
- MARI SAGER, The Ideas Bank, Norway
- FERNANDA SANTOS, Portugese Association for Consumer Protection, Portugal
- GREGOR TORKAR, Notranjska Regional Park, Slovenia
- BISSERKA VELEVA, Sofia University, Bulgaria

The task group would like to thank Victoria W. Thoresen, CCN Project Leader, and Associate Professor, Hedmark University College, Norway, for her advice and support in the development of this resource.

目次

ページ

はじめに.....	4
画像と教材ツールキット	
消費者市民権ネットワーク（CCN）	
タスクグループ8	
国連持続可能な開発のための教育の10年	
持続可能な開発のための教育における能動的指導と学習アプローチの重要性	6
持続可能な開発のための教育を支援する画像と教材の使用.....	8
画像と教材ツールキットの対象ユーザー	
持続可能な開発画像と教材のための質の高い教育の選択	
基本的な「画像と教材」アクティビティ.....	10
評価.....	12
持続可能な開発のための教育をサポートする画像や教材の代替案	13
参考文献.....	14
ツールキットの画像の背景情報.....	15



はじめに

画像と教材ツールキット

画像と教材ツールキットは、持続可能な開発のための教育に関心のある指導者や教師を対象としています。

以下を含むツールキットの開発の背景を提供します：

- 国連持続可能な開発のための教育の10年の背景
- 持続可能な開発のための教育の適切な方法論の概要。

サンプル画像のスターターキットには写真や教材を使った持続可能な開発のための教育活動を計画・実施するための段階別の説明が含まれます。

このツールキットを補完するその他のリソースは Consumer Citizenship Network のウェブサイト (<http://www.hihm.no/concit>) にあります。

消費者市民権ネットワーク (CCN)



消費者市民権ネットワークはノルウェーのヘドマーク大学がエラスムス計画のひとつとして主催する3つのテーマ別ネットワークプロジェクト (CCN2003-2006およびCCN22006-2009) です。

これは、37か国、131の高等教育機関の教育者からなる学際的なネットワークであり、参加団体には国連環境科学文化機関 (UNESCO)、国連環境計画 (UNEP)、個人による建設的な行動により持続可能な消費と世界的な連帯を早急に達成しなければならないと考える、国際的な市民権および消費者団体が含まれています。

消費者市民権ネットワークは以下を扱います：

- 消費者市民権に関する研究の動機付けと調整
- 消費者市民権の共通能力の特定
- 消費者市民教育のカリキュラム提供の調査
- 消費者市民権教育の実行とアクセスのための優れた実践の開発

タスクグループ8

このリソースは、CCN2タスクグループ (タスクグループ8) によって実施された作業プログラムの成果です。アイルランドのダブリン市長と会合し持続可能な開発

タスクグループ8の目標：

- 重要な「小・中学校教育の学際的テーマ」として、消費者市民権教育に貢献する
- 持続可能な開発のための教育 (ESD) について教師育成セミナーを計画・実施する



のための教育について話し合うCCNタスクグループ8のメンバー。

タスクグループ8のメンバーが提供するESDセミナーは、持続可能な開発「についての」教育ではなく、持続可能な開発「のための」教育を奨励する経験的方法論の利用に焦点を当てています。つまり、フォーマルな従来型の教育・学習アプローチ (伝達的方法論) ではなく、より能動的な教育・学習アプローチ (変革的方法論) が使用・促進されます。

画像と教材ツールキットはESDセミナーにおいて効果的で楽しい教育・学習リソースと証明され、以下のような効果をもたらしてきました：

- 国連持続可能な開発のための教育の10年に関する概念探究の活性化
- 学習者の意識を高め、批判的かつ情報に基づいた思考と意思決定を生み出せるような方法論の種類についての有意義な議論の促進。このリソースは、すでに効果が立証されている教育における画像や写真の使用方法に基づいています。

CCNタスクグループ8のESDセミナーに参加している
フォーマル・非フォーマルな教育者の指導を通じて
生まれたアイデアをまとめたものです。ツールキッ
トは、教育や学習環境の中で持続可能な開発の様々
な側面を探求するために視覚的アプローチを使用し
たいと希望する教師や主催者向けにすぐ使える教材
を提供することができます。

画像と教材ツールキットを効果的に使用するには、
国連持続可能な開発のための教育の10年の目的と、
学習者とともにESDの概念を探求するためにこの手法
を使うのがなぜ重要かを理解することが大事です。

国連持続可能な開発のための教育の10年（2005- 2014）



国連は、2005年から2014年を世界的な持続可能な開
発のための教育の10年と決めました。国連教育の10
年のグローバルなビジョンは、誰もが教育の恩恵を
受け、持続可能な未来と前向きな社会変革に必要な
価値観、行動、ライフスタイルを学ぶ機会を持つ世
界です。

持続可能なアプローチと行動を世界中で発展、強化、
普及させる必要があることは疑いの余地がありません。
この「10年」の主要機関であるユネスコは、持続可
能な開発がすべての人に影響するとしています。

持続可能な開発とは何ですか？

持続可能な開発は、現在の世代の生活の質を保護し、
将来の世代の生活の選択肢を維持することを可能に
する、継続的で包括的な社会的変化のプロセスです。
今日、持続可能な開発は個人の可能性を広げ、社会
的繁栄、経済成長、環境適合性を達成する方法とし
て広く認識されています。つまり持続可能な開発と
は、21世紀の生活と就労パターンを現代化するた
めの総合的な概念です。

持続可能な開発のための教育（ESD）とは
持続可能なアプローチと行動を一刻も早く実行しな
ければならないことは、すでに広く認識されていま
す。持続可能性は一元化したトップダウン戦略で強
制することはできません。すべての人に影響を及ぼ
し、すべての人が参加する社会的な変化のプロセス
を経て実現するものです。教育現場はこのような必
要な変化を促進する上で重要な役割を果たします。

ESDの目的は、地域と世界の相互関係に留意しなが
ら、生態学的に持続可能で、経済的に効率が高く、
社会的に公正な環境の形成に能動的に人々が参加で
きるようにすることです。

持続可能な開発のための教育はすべての人に関連性が
あり、次のことを目的としています：

- 人々の暮らしを改善する
- 個人、社会、経済生活において新しい可能性を創出
する
- 社会的変化の受け入れを促進し、現在進行形で形
像的なプロセスを提供する
- グローバルな当事者意識を促進する



持続可能な開発のための教育における能動的 教育・学習のアプローチの重要性

持続可能な開発は、交流、参加型、内省的なアプローチが求められる学際的な分野です。持続可能な未来を共に探求する過程の中で、学習者が自分自身の理解、意味づけ、価値観を構築できることが大切です。能動的教育・学習によって、このプロセスを促進できます。教育における能動的な授業・学習の取り入れ方については何度も論じられてきました。このセクションでは、ESDに同じアプローチを取り入れることの妥当性を理論的に説明します。

教育心理学者たちによれば、人間は聞いたり読んだりしたことよりも、実行したことの方をはるかに強く記憶します。したがって、生徒の学習を向上させるために、教育者は可能な限り能動的な体験学習と現実世界の問題への取り組みを強調すべきです。古い中国のことわざがあります：

「聞いただけでは忘れてしまう。
見たものは覚えている。
そして実行すれば理解できる」

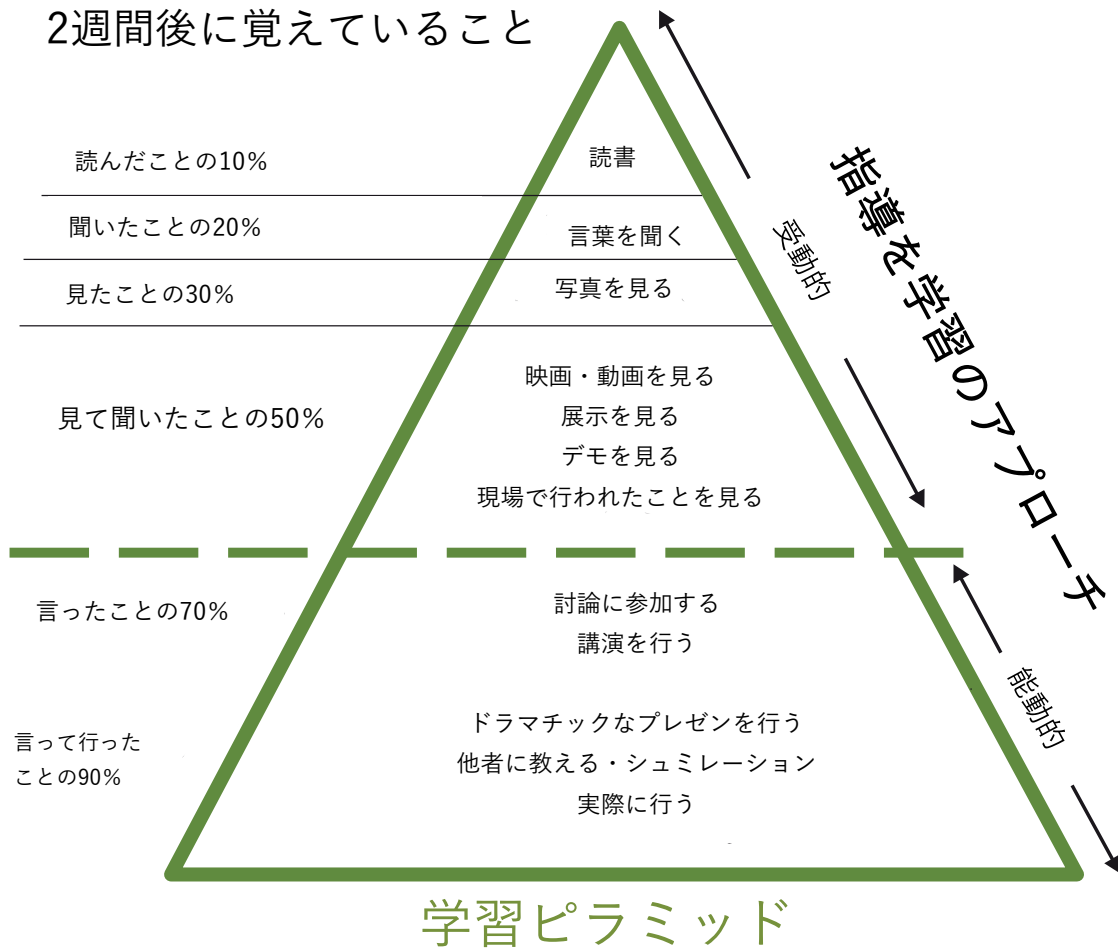
表1：伝達的手法と変革的手法の違い (Adapted Sterling, 2001)

従来型アプローチ 透過的	能動的アプローチ 変革的
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育の焦点 ● 受動的学習者 ● 教師による指導 ● 教師だけから学ぶ ● 専門家から学ぶ ● 一人のキーパーソンによるフィードバックから学ぶ ● 競争的環境 ● ルールに依存する ● 一貫性・同一性 ● 機密性 ● 他人の真似は勧めない ● 間違いを恐れる ● ノートによる学習 ● フォーマルな教室のレイアウト ● 授業時間が短い ● 孤立した決定 ● 結果的思考 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の焦点 ● 能動的学習者 ● 教師が導く ● お互いから学ぶ ● ガイド中の発見 ● 多くの人の制約から学ぶ ● 協働的環境 ● ガイドラインに依存する ● 多様性・柔軟性 ● オープン性・共有 ● 借りながらの学習を奨励 ● 間違いから学ぶ ● 問題解決による学習 ● フォーマルではない・柔軟な配置 ● 授業時間が長い ● 他人の関与 ● プロセス思考

「画像・教材ツールキット」は、伝達的な教授法とは対照的だとしばしば指摘される種類の戦略に焦点を当てています。伝達的な教授法ではより形式的で教師中心の手法が使われます。たとえば、専門家が学習者を能動的に参加させることなく、一方的に情報を伝達します。これに対し、画像と教材ツールキットでは能動的な授業・学習の手法を奨励します。そうすることで教育者と学習者、学習者自身、および学習者とトピックの間で相互作用の可能性が広がります。

Sterling (2001) は伝達的手法（情報を学習者に伝達する）と変革的手法（学習者が物事の意味を自ら構築し当事者意識を持つ）の異なるアプローチと価値を比較し、変革的手法は「授業の手法を超え、哲学や学習の目的を反映している」と述べています。Sterlingの比較の引用を表1に示します。

図1：学習ピラミッド (Dale, 1957)



Edgar Dale (1957) は、学習ピラミッド (図1) を使って、授業・学習の手法と2週間後に学習者が学習内容をどれくらい覚えているかの関連性を説明しました。ピラミッドから明らかのように、実践による学習を取り入れた能動的な手法が最大の学習効果を示しています。

学習者にはそれぞれ好みの学習スタイルがありますが、この学習スタイルは一部の学習者に特に強く支持されました。情報を視覚的に見ることを好む学習者 (視覚学習者)、耳から聞くことを好む学習者 (聴覚学習者)、実践して学ぶことを好む学習者 (運動感覚学習者) がいました。基本的に好みの学習スタイルで学んだ場合に、学習効果が最大となります。変革的 (能動的) な授業・学習手法を取り入れることにより、好みのスタイルで学ぶ機会が増えます。

持続可能な未来を模索する上で、環境との関係における自分の立場を再定義する必要があります。これ以上

過ちを繰り返す時間はありません。私たちは「持続可能な開発の教育」の価値観に基づいて、より優れた解決策を見つけなければなりません。変革型学習手法はそのプロセスに役立ちます。



2007年、アイルランドのアスローンでCivic Social & Political Education (CSPE) ファシリテーターとESDセミナーを実施するCCNタスクグループ8。

持続可能な開発のための教育を サポートする画像と教材の使用

画像と教材ツールキットの対象ユーザー

画像と教材ツールキットは、フォーマル・非フォーマルな教育環境で働く教師、家庭教師、ファシリテーターを対象としており、それぞれの参加者グループの使用方法に合わせてアクティビティを調整できます。

画像と教材ツールキットはほとんどすべての主題や分野に利用できます。ESDに関連する幅広い概念を地域、国、および世界レベルで深く学ぶのに特に役立ちます。

画像と教材ツールキットには、教師、家庭教師、ファシリテーターがすぐに使用できる「クイックスタート」が含まれます。いずれは教育者が独自の画像や教材を「ツールキット」に追加したり、学習者が貢献するようになるといいでしょう。

画像と教材ツールキットの目的：

- 学習プロセスを強化し、学習環境に新しい方法を導入して、学習者の多様なニーズとスタイルに対応する
- グループワークを通じて民主的かつ協調的なアプローチを奨励する
- 内省的・批判的思考を促し、次のような行動のきっかけとなる：前提や固定観念に疑問を投げかける、原因と結果の関係について話し合う、問題を解決する
- 環境や持続可能な開発の重要性への認識を高める
- 持続可能な開発に関する具体的な例を示して理解を深める
- 経済的、社会的、環境的および・または文化的観点から、画像や教材によって描かれているもののプラスおよび・またはマイナスの影響を調査する
- 食品、輸送、住宅、エネルギーなどに関する権利と責任に対する消費者の意識を高める

百聞は一見にしかず

持続可能な開発画像と教材のための良い教育の選択

画像や教材の選択に際して、ファシリテーターや教師は次のことを考慮するようにします：

画像や教材は高品質か？明確で読みやすいか？

画像・教材がESDテーマに関連する姿勢、価値観、信念、前提、認識、ステレオタイプなどに関する議論を奨励、促進、または触発するか？

有効な質問：

- 写真で何が起きていますか？
- どこで撮影されましたか？
- いつ撮影されましたか？
- これはどこから来ましたか？
- 持続可能な開発について何を語っているか、あるいは語っていないか？
- その画像や教材はポジティブ、ニュートラル、ネガティブのどれか、あるいはその組み合わせか？
- その画像や教材の何が興味深いのか？
- 背景で何が起きているのか？
- 画像の外で何が起きていると考えられるか？
- 画像にどのような感情が示されているか、2つの視点から考える：画像の中の人物の感情と、画像を見る観察者の感情
- その画像や教材が答えられない質問は何か？

画像や教材全体をひとつにまとめる際、ファシリテーターや教師は次のことを考慮します：

発展途上国を題材にした画像や教材などを過剰に強調するよりも、地域から世界まで幅広く網羅するように、バランスよく画像・教材をまとめる。持続可能な開発はあらゆるコミュニティに関わる問題である。

毎日の活動、設定、物などのありふれた日常の画像が何よりも効果的である。衝撃的だったり、「すごい！」と驚くような画像や教材である必要はない。

ごく普通の物事に対しても、学習者によって見えるもの、意見、視点は異なる。

意図的な場合を除いて、持続可能な開発に関する特定の分野・問題を強調しすぎないように配慮する。

一般的なESD活動の中で特定のテーマに関する画像や教材を多く使いすぎて、結果的にそうなる場合があります。例：リサイクル用のゴミ箱、埋め立て地、リサイクル品収集所、路上ゴミなど、廃棄物の写真が多すぎるなど

国連持続可能な開発のための教育の10年の8つの主要な行動テーマをしっかりと網羅するように意識して画像や教材を集めてください。

国連持続可能な開発のための教育の10年の主要な

行動テーマは次の通りです：

- 男女共同参画
- 文化的多様性
- 健康増進
- 平和と人間の安全保障
- 環境
- 持続可能な都市化
- 農村開発
- 持続可能な消費

詳細はwww.unesco.org/Education/desd/を参照してください

画像と教材：背景情報 画像や教材を集めるときは、それぞれの背景情報も収集してください。以下の情報を参加者に伝えるのも有意義でしょう。

例えば写真の場合、次のような情報が役立つでしょう：

- 写真を提出した人の名前
- 写真を撮った人の名前
- 写真が撮られた場所
- 写真が撮られた日

- 写真の中で何が起きているか
- 写真に人物が写っている場合、教育活動や資料のためにその写真を使用する許可は得たか？
- 撮影者はなぜその写真を撮ったのか：撮影者の興味を引いたのは、設定、場面、状況？
- その写真とESDを結びつけるものは何か？

写真を撮ったり、教材を選択したりする際の倫理的考慮事項

人物を描写する画像を使用する場合は、教育目的で画像を使用することに対してその人物（または親/保護者）の許可を得て、個人の尊厳を尊重することが重要です。

ESDの土台となる価値観を使用する画像と教材の選択と種類に反映しなければなりません。

その価値観とは以下の通りです：

- 写真の被写体や、物の制作に関わった人々の人格を尊重する
- すべての人々は平等であるという信念
- 公平性、連帯、正義を促進する必要性を受け入れる（Dochas、2006年より）。

昔々、大きな山火事があり、鳥や動物たちは大急ぎで逃げ出しました。
ハチドリは川に行き、水を一滴だけ集めました。
他の鳥は笑いました。「一体何をしてるんだ？」と尋ねました。
彼女は「自分にできることをしているの」と答えました。

アメリカ先住民の物語

「画像が身の回りにあふれ、画像分析に慣れている現代では、画像を使ったのみの作業は言語作業よりも受け入れられやすいでしょう」

「画像を使うことは、学習者に兆しや兆候の読み取り方を教えるために非常に重要です。学習者は視覚的なメッセージの重要性に敏感になります」若い世代が住む世界はとてとても視覚的です（テレビ、コンピューターなど）。若い世代は視覚的なメッセージを常に受け取っていますが、そのメッセージから受けた影響を自覚していないことがあります。

「参加者の身近な問題のみに焦点が偏らないよう、多様な画像、特に第三世界の画像が必須です」

「画像は人の想像力や創造性を活性化します。1つの画像から読み取れるものも、見たものの解釈の仕方も様々です。」

基本的な「画像と教材」 アクティビティ

このアクティビティを効果的に行うには8人以上の参加者が必要です。学習プロセスの中で全員が確実に参加できるため、大人数のグループの方が効果的です。

必要なもの

持続可能な開発の長所と短所を伝える一連の画像と教材。このツールキットの画像を参考にして他の画像・教材を集めるのも良いでしょう。画像を小冊子から外し、説明にしたがって切り取ります。その他の画像や情報はCCN2のWebサイト (<http://www.hihm.no/concit/>) で入手できます。

このアクティビティに適した画像や教材のタイプは以下の通りです：

- 絵、写真、ポスター
- 広告
- デッサン、絵画
- 物体、芸術品
- キーワードまたは文章が書かれたカード
- 新聞の切り抜き
- 白紙のカードとマーカー

アクティビティの手順

ステップ1 選択した画像や教材を、参加者が歩き回ってひとつずつ見ることができるような部屋に並べます。テーブルがなければ広い床の上がよいでしょう。



ステップ2 参加者はそれぞれ強い印象を受けた画像または教材を1つ選びます。例：何か重要なことを表現していたり、持続可能な開発について重要なメッセージを伝えている写真など。また白紙のカードを選んで、自分自身の言葉や意見を書いてもいいでしょう。

ステップ3 2人ペアになって、それぞれ選択した画像や教材を見せ合うように指示します。参加者はそれを選んだ理由をお互いに説明します。

ステップ4 2組のペアをまとめ4人のグループを作ります。それぞれの画像や教材について話し合い、グループの意見を示す画像または教材をひとつだけ選びます。選んだものを以下の項目に沿ってクラス全体に紹介します：

- なぜその画像または教材をグループを代表するものとして選んだかの説明。
- 1つの画像または教材を選ぶに至るまでのプロセス。
- 「持続可能な開発」についての議論を促進するアクティビティの重要性について。
- グループ内での「持続可能な開発」に関する重要な議論のポイントや問題。



ステップ4では、ファシリテーター・教師はグループのあいだを歩き回り、全員がタスクに取り組んでいることを確認します。興味深い議論が耳に入れば、ステップ6（一般的なディスカッションの段階）で取り上げます。

ステップ5 グループメンバー4人の代表として発言する人を各グループから一人選びます。

ステップ6 各グループの代表者が画像または教材を他のグループに紹介します。続いてファシリテーター・教師主導でクラス全体の議論を行います。

このクラス全体の議論の際、ファシリテーター・教師が画像・教材の背景情報を説明すると議論の役に立つでしょう。そうすることで、画像・教材は様々な解釈をして良いこと、一般論や偏見やステレオタイプに基づいた意見などに注意し、避けなければならないことを強調できます。

画像や教材をきっかけにした議論に対して、直接的で詳しい背景情報を提供することで、参加者が「持続可能な開発」の現実、複雑さ、難しさをより深く、より幅広く理解できるようにします。ツールキット内の画像の背景情報は裏表紙の内側に記載していません。

このアクティビティを取り入れるメリットを表2に示します。

表2: 「画像と教材」アクティブメソッドを使うメリット

アクティビティのステップ	メリット
ステップ1: さまざまな画像や教材の提示。	さまざまな画像や教材でさまざまな感覚や学習スタイルを刺激する。
ステップ2: 参加者はそれぞれ画像または教材をひとつ選ぶ。	すべての画像や教材は何らかの形で「持続可能な開発」に結びついており、答え・選択に正解も間違いもありません。
ステップ3: 参加者は2人1組のペアを作り、それぞれが選んだ画像や教材を見せ合う。	大勢のグループに対して発表するよりも気楽に話し合ったり他の人の視点を知ることができる。
ステップ4: 4人グループがひとつの画像または教材を選ぶ。	小グループという気楽な環境で民主的プロセスと意思決定を体験することができる。
ステップ5: 各グループから1人を代表者として選ぶ。	報告者の役割を引き受け、グループ内の議論で交わされた情報を処理するという体験ができる。
ステップ6: 全体ディスカッション	これで視点と観点が広がります。

「ある物事に関する視覚的情報、言葉、感情をひとつにまとめ、持続可能な開発に結びつけるための素晴らしい手法だと思います。選んだ写真を手に持ち、自分の気持ちを言葉にして他の人々に説明すると、それが自分にとってどれほど重要なことが改めて気づきます。自分や他の人にとって持続可能な開発が何を意味しているのか、様々な意見や視点を知るのに有効でした」

「言語能力が異なる参加者（母国語が異なる場合でも、言語能力のレベルが異なる場合でも）が写真を使うと、コミュニケーションが簡単になります」

「楽しい！学習者は画像や教材を見て話し合うのを楽しみました」

「このアクティビティは多重知性理論にも一致しています。学習者は画像、教材、テキスト（新聞や雑誌の記事）の中から好きなものを選択できる。つまり、それぞれの学習力や好み合ったものを見つけることができるのです」

評価

画像と教材のアクティビティ

グループの振り返り

グループを代表する画像または教材が決まったら大勢の前で発表する前に

以下の質問について考え、答えを書いておきましょう：

なぜこの画像または教材をグループを代表するものとして選んだのですか？

この画像または教材にしようとするまで、どのようなプロセスがありましたか？

持続可能な開発に関する議論を進める上で、画像や教材はどれくらい役立ちましたか？

持続可能な開発に関してグループ内で扱った重要な議論のポイントや問題は何か？

その他のコメントは？

持続可能な開発のための教育に画像や教材を役立てるその他の利用方法

Show and Tell

持続可能な開発と何らかの形で結びつくような、参加者が撮影した写真、あるいは制作・購入した物を、教室に持参するように指示します。

参加者は画像または物を他の参加者たちに見せ、その背景情報や意味を説明します。

ポジティブ・ネガティブ

参加者に1つではなく2つの画像・教材を選択させます。1つは持続可能な開発のポジティブな側面を伝えるもの、もう1つはネガティブな側面を伝えるものです。その後、参加者は基本的な画像・教材アクティビティと同様に最初はペア、次に4人のグループを作ります。

私がここにいる理由

ESDワークショップの開始時、ワークショップに参加した理由、このような活動に関わっている理由を改めて思い出せるような画像・教材を参加者全員に選ばせます。参加者は次に、クラスの中で知らない相手を一人選び、その画像や教材をその相手に紹介します。

スイッチ

参加者はそれぞれ画像または教材を選択します。2人の参加者が1組になって画像・教材を交換します。2人はそれぞれ、相手がなぜその画像・教材を選んだのか推測します。数分考えてからまた集まり、推測した内容を相手に告げ、次に正しい答えをお互いに教えます。

グループシンクタンク

大きな紙または厚紙の中央に画像を貼り付け、各グループ（4人前後）に渡します。各グループにポストイットとマーカーを渡します。グループは画像を見て考えた文章や意見を書いたポストイットを画像の周りに貼り付けます。壁の全員が見える場所に画像とポストイットを貼ります。

カラーセルグループ・シンクタンク

上記の「グループシンクタンク」と同様にアクティビティを開始します。ただし、各グループが異なる色のポストイットの束を受け取るようにしてください。

各グループに1分間与え、画像を見て考えた言葉や意見を書いたポストイットを画像の周りに貼り付けるように指示します。グループは次のグループシートを渡し、次のグループは言葉や意見を足したり、最初のグループのポストイットに対する反応を書いたりします。全グループを一巡するまで同じことを繰り返します。アクティビティの最後に画像やコメントを追加したポスターを壁に貼ります。ポストイットの色を見れば、クラスのグループ全体でアクティビティが一周するにつれて、考えや意見が蓄積され展開されたかが一目瞭然です。

比較対照

それぞれのグループに画像をひとつ渡し、その画像の中に「見える」と自分たちの暮らしとを比較対照させます。

バーチャルインタビュー

少なくとも1人の人物が描かれている画像を各グループに渡します。その人物にインタビューするとしたらどのような質問がしたいか、各グループにリストを作らせます。

分類

別の紙に国連持続可能な開発のための教育の10年の8つの主要行動テーマを書きます。部屋の別の壁のよく見える場所に紙を貼ります。

持続可能な開発の教育に関する画像・教材を大量に集めたものを床の上に並べます。

持続可能な開発の教育に関する画像・教材を大量に集めたものを床の上に並べます。

参加者は画像や教材を分類し、国連持続可能な開発のための教育の10年のそれぞれの主要行動テーマの下に並べます。最初に置かれた場所に同意しない参加者は、その画像・教材を別の主要行動テーマの下に移動させることもできます。

すべての画像・教材の場所に全員が同意するまで、分類と移動を続けます。グループで経験について話し合います。

照明、カメラ、アクション…

「持続可能な開発のための教育」の特定のトピックに関するクリエイティブなセミナーの参加者は、自分で画像・教材資料の一式を作成することもできます。参加者には事前にデジタルカメラを持参してセミナーに参加するよう伝えます。セミナーでは外に出て「持続可能な開発のための教育」について何かを語るような写真を撮ります（問題、良い例、悪い例など）。指定の時間にクラスに戻り、それぞれの写真を見せて説明します。写真をメモリースティックに保存してラップトップ・プロジェクターなどで大勢に見せても良いでしょう。話題に関連した物を集めてクラスに持ってくることもできます。

Jigsaw Time

このアクティビティはアイスブレイカーとして、またグループ形成に役立ちます。例えば 24 人のクラスで 4 人ずつのグループを 6 つ作りたい場合、以下のようにします：

- 6 つの画像を選び、それぞれを 4 つのピースに切り離します（ジグソーパズルのように）
- 切り分けたものを床の中央に置き、各参加者が 1 ピースずつ選びます。
- 参加者は部屋を歩き回って、自分のピースに合致するピースを持った他の参加者を探します。
- 画像を構成する 4 つのピースがすべて見つかり、4 人ずつのグループが形成されたら、それぞれの画像について話し合うように指示します。

ジャーナリスト

全国紙や雑誌に持続可能な開発に関する記事を書いているジャーナリストになったと想像してみてください。選択した画像や教材にキャプションと短い記事を書きます。

刺激的なアイデア

部屋に画像や教材のディスプレイを配置します。参加者に、ESD に関連するテーマについての短い記事を書いてもらいます。執筆のインスピレーションとしてディスプレイを使用できます。

参考文献

Armstrong, T. (1993) 7 Kinds of Smart: Identifying and developing your own intelligences. New York: Plume Books (Penguin).

Dale, E. (1957) Audio-Visual Methods in Teaching. New York, The Dryden Press, Inc.

Dochas (2006) Code of Conduct on Images and Messages-available at

http://www.dochas.ie/documents/Images_and_Messages.pdf

Gardner, H. (1993). Multiple Intelligences: The theory in practice. New York: Basic Books, Inc.

Sterling, S. (2001) Sustainable Education: Re-visioning learning and change, Schumacher Briefing No.6:Schumacher Society, Green Books, Dartington

Warburton, K. (2003) Deep Learning and Education for Sustainability, International Journal of Sustainability in Higher Education, Vol. 4, No. 1, pp 44-56, Emerald, Bradford UK.

Consumer Citizenship Network

<http://www.hihm.no/concit/>

国連持続可能な開発のための教育の10年

www.unesco.org/education/desd/

ツールキットの画像の背景情報

画像番号1：TREE INDUSTRY

この写真は、アイスランドのエイルススタジルのカラマツ栽培産業を紹介するものです。植樹は重要なプロセスですが、植える木の適性、「非在来種」の植樹が及ぼす長期的影響については今も議論が続いています。近年までアイスランドには樹木がほとんどありませんでしたが、樹木は風や羊の過度の放牧によって引き起こされた土壌侵食の問題の解決策となります。

画像番号2：ルワンダの雲

この写真は、キガリ国際空港から離陸したルワンダ航空の機内で撮影されました。ルワンダは中央アフリカに位置し、よく「ミルコリーヌ」（千の丘）の国と呼ばれます。壮大な美しさを持つ国です。ルワンダは人口800万人ほどの非常に小さな国で、そのうち700万人が土地によって生計を立てています。1994年に発生した大量虐殺では、環境と人口の相互作用がひとつの要因となりました。

画像番号3：地熱発電所

この写真はアイスランドのヘリシェイジにある地熱発電所を撮影したものです。地熱発電は地下の熱を利用して蒸気を生成し、汚染を最小限に抑える持続可能なエネルギー源です。ただし、発電所の建設という点では環境への影響もあります。

画像番号4：フルーツマーケット

この写真は、イタリアのローマの中心にある市場に並ぶたくさんの果物屋台を撮影したものです。写真を見ればそこで買える果物の種類が分かり、その果物が地元で栽培されたものか、有機栽培されたものか、また環境や人間の健康にどのような影響があるか、といった問題が提示されます。

画像番号5：ペーパーボウル

この鮮やかな色のフェアトレード・ボウルは、100%再生紙を原料としてベトナムで作られました。雑誌の紙を手作業で螺旋状に巻いて貼りつけて作ったボウルです。螺旋状に巻かれた小さな土台の上にしっかり立っています。アイルランドのダブリンで、オックスファムが運営するフェアトレードショップで購入されました。

画像番号6：持続可能ではないごみ収集

この写真はイスラエルのエルサレムのオールド・タウンで撮影されました。ごみ収集とリサイクルシステムの脆弱性と不備を象徴的に伝えています。廃棄物を収集して適切な「穴」に捨てても、「裏口」から未処理のまま管理されず環境に戻ってしまいます。

画像番号7：パリの灯

この写真は、フランスのパリで元旦に撮影されました。街の照明はロマンチックな雰囲気です。しかし、都市を照らすために使用されるエネルギーという意味で環境に影響を及ぼします。パリはとても人気のある観光地なので、この写真を使って倫理的な観光に関する問題を議論しても良いでしょう。

画像番号8：自転車

この写真はオランダの駅で撮ったものです。自転車は持続可能で健康的な交通手段であり、二酸化炭素排出量の影響を減らす手段です。環境と個人の健康にポジティブな影響があるのは明らかなのに、ヨーロッパ各国における自転車の利用はあまり多くありません。

画像番号9：アテネ

この写真はギリシャのアテネにあるアクロポリスで撮影されました。アクロポリスはヨーロッパ文化遺産の遺跡リストに登録されています。アテネの素晴らしい景色がどこまでも続き、古代の遺跡と現代的な建物やインフラが混在しているのが分かります。近郊を含むアテネ市の人口は約400万人です。世界で最も古い都市のひとつであり、3000年以上にわたって人が住み続けてきました。

画像番号10：足

この写真は2007年5月にブルガリアのソフィアの通りで撮影されました。写っている足は、アイルランド、スロベニア、アイスランドの消費者市民権ネットワーク（タスクグループ8）のメンバーのものです。この写真は、ライフスタイルが環境に与える影響を測る手段としてのエコロジカル・フットプリントに関するディスカッション中に撮影されました。この画像を使って衣料品の製造と起源についての議論を促すこともできるでしょう。

画像番号11：蚊

この蚊とアフリカのことわざの画像を使って、個人の行動と参加の重要性についての議論を刺激しても良いでしょう。学習者は持続可能な開発の責任がどこにあるか、そして・または地域とグローバルの結びつきの重要性について深く考えるかもしれません。参加者は有名な活動家（ガンジーなど）について話したり、それぞれの地域での活動の例を発表することもできます。また、自分が知っている類似のことわざを紹介したり、独自のことわざを考案することもできます。

画像番号12：電気ワイヤー

この電線の写真はアイルランドのウィックロー・カウンティで撮影されました。次のような問題の議論を促すのに使うことができます：電気はどこから来ているのか、本当にこれだけの電気が必要なのか、有害な排出物について、燃料の輸入、燃料コストの上昇、再生可能なエネルギーなど。



この「画像・教材ツールキット」は、消費者市民ネットワークとの協力によりタスクグループが集めたアイデアと資料をまとめたものです。このツールキットが、能動的で視覚的なアプローチを取り込みたいと望む教師やファシリテーターにとっての手がかりとなり、授業や学習環境の中で「持続可能な開発」の様々な側面を探究するのに役立つことを願っています。







3



4



5



6







"If you think you are too small to
make a difference, try sleeping in
a closed room with a mosquito"
(African Proverb)

